



平成28年4月25日

各 位

会 社 名 住友精密工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 三 木 伸 一
(コード番号 6355 東証一部)
問合せ先 管理部長 松 永 徹 也
(TEL 06-6489-5816)

営業外損失（為替差額）の発生、特別損失の計上 並びに業績予想の修正に関するお知らせ

平成28年3月期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）におきまして、営業外損失（為替差額）が発生しましたことに加え、特別損失を計上いたします。また、併せて、直近迄の業績動向等を踏まえ、平成28年1月29日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外損失（為替差額）の発生

平成28年3月期通期の連結決算において、円高に伴う為替差額が発生し、697百万円（単独484百万円）を営業外損失に計上いたします。なお、この内、335百万円については第3四半期の連結決算に計上済であります。

2. 特別損失の計上

（構造改革費用の計上について）

熱エネルギー・環境関連事業の連結子会社である住友精密工業技術（上海）有限公司につきましては、中国における環境対応ニーズの高まりを受け、当社の水処理技術を活かすべく、公共廃棄物最終処理施設に於ける浸出水浄化事業を中心に取り組んで参りましたが、国情等から採用決定迄に想定を超えた長期間を要しており、更に昨今の経済減速等の影響にも照らし、今後の速やかな普及拡大を期待できる状況にはないと判断するに至り、同国における浸出水浄化システムの販売は取り止め、新たな事業体制構築を図ることとし、これに係わる構造改革費用として、平成28年3月期通期の単独決算において、約7億6千万円（連結 約1千万円）の特別損失を計上いたします。

また、ICT関連事業の連結子会社であるM2Mテクノロジーズ株式会社におきましては、高齢化社会を支える基盤インフラとして期待の大きい見守りシステム事業を取り進めて参りましたが、競合の参入や情報通信機器の多様化に伴う類似サービスの拡大等もあり、加入者数の伸びが当初想定を下回る状況が続いており、将来的な市場拡大は確実と見られるものの現状では競争激化等が避け難いものと判断し、今後の確実な事業展開を図るべく使用資産や対象分野を絞り込むこととし、その為の構造改革費用として、同じく当期の単独決算において、約7億4千万円（連結 約5億5千万円）の特別損失を計上いたします。

3. 平成28年3月期通期業績予想数値の修正

(1) 平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	52,500	1,800	1,050	100	1.89
今回修正 (B)	51,000	1,350	350	△ 600	△ 11.33
増減額 (B - A)	△ 1,500	△ 450	△ 700	△ 700	
増減率 (%)	△ 2.9%	△ 25.0%	△ 66.7%	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	47,135	1,597	2,023	1,450	27.39

(2) 平成28年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	43,000	1,900	1,250	300	5.67
今回修正 (B)	42,000	1,000	550	△ 950	△ 17.95
増減額 (B - A)	△ 1,000	△ 900	△ 700	△ 1,250	
増減率 (%)	△ 2.3%	△ 47.4%	△ 56.0%	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	41,675	1,845	1,880	1,206	22.78

(3) 修正の理由

(連結業績予想の修正)

売上高及び営業利益につきましては、LNG気化装置やMEMS半導体製造装置等の一部販売の翌年度へのずれ込みに加え、販売構成面の変化等の影響により、又、経常利益につきましては営業外為替差損の拡大もあり、いずれも前回予想を下回る見込みであります。親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、2項に記載の特別損失の計上等により前回予想を下回る見込みであります。

(個別業績予想の修正)

個別業績予想につきましても、上記の連結業績予想の修正と同様の理由に加え、航空機脚部品の生産・出荷の集中に伴うコスト増加等もあり、売上高及び各利益ともに、前回予想を下回る見込みであります。

(注) 上記の業績予想は本資料の発表時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想と異なる場合があります。

以 上